

ひとを育てる活動

奨学生の現状 — ハイスクール生、 大学生へのインタビューから

2年前のCMIPの方針変更で、家から離れたミアソン寮ではなく、親戚の家から近くの高校に通うようになった奨学生たちを訪ねました。山の中腹にあるミアソン寮は涼しいけれど、低地の市内やアラベル町は暑いという話にはうなずきました。



ジョセリン(ハイスクール4年)
叔母宅に寄宿中。交通費を工
面できないため、実家にはほと
んど帰省しなかったそう。

奨学生たちはおじさんやおばさんの家に寄宿し、自分の制服を洗濯したり、毎日の皿洗いや家の中の掃除なども手伝いながら勉強を続けています。好きな科目を聞くと「数学!」「全部好き!」という奨学生たちです。小さい子どもがいる上、奨学生を受け入れている家も多く、特に市内のスラム地域では、勉強しようと思っても姪っ子や甥っ子たちがうるさ

くて集中できない、という声も聞かれました。自宅か親戚宅か、町か市内か(どのような環境か)など、一人ひとりの学習・生活環境を考えて、場合によっては方針の見直しを考えていく必要もありそうです。



アルマンド(職業訓練コース2年) 自動車修理工場で
機械油にまみれて実習中。工場のオーナーと一緒に。

ミンダナオ国立大学の女子寮も訪問しました(5ページ写真)。夏期休暇を目前にして、期末試験勉強をしたり、教育学専攻の学生はサマークラス履修の準備をしたり。皆、勉強できる喜びと日本の支援者の皆様への

感謝の気持ちに溢れています。

卒業を控えた生徒たちにも何人か会い、会員の皆様とHANDSからのお祝いのカードを直接手渡しました。これから次の課程へ進む卒業生も、村へ帰って家族と村のために働く卒業生もいます。6月に始まる新学期からの新奨学生へも皆様のご支援を届けられることは、スタッフ一同の大きな喜びです。

6年間の成果評価と栄養研修 — CMP 運営6校の給食支援 —

「十分な朝食をとれずに1時間かけて山道を登校する子どもの集中力は、昼までもたない」。自ら貧しい子ども時代を送ったビラーン民族のファーディ神父の要請で5年前に始めた給食支援が、2期目の最終年になりました。今年度は会員の皆さんから、「NPO 法人 WE21 ジャパンさいわい」の助成により、評価活動と母親の栄養教室も加えた給食事業を実施します。

「さいわい」からのご支援は、教師国家試験経費および教科書・教材費支援に続き、3年目になりました。多くのボランティアに支えられたりサイクル事業収益金を、子どもたちの健康と学力向上のため活用させていただきます。

ブラクール校・先住民族教育事業終了

ひろしま・祈りの石国際教育交流財団助成

3月25日、ブラクール幼稚園、小学校、ハイスクールの卒業式に出席しました。ハイスクール卒業生は実習で縫ったマロンを着て式に臨みます。

式終了後、8名の先生方からこの3年間を振り返ってのお話をうかがいました。具体的な成果としては、
○菜園実習では、野菜の栽培だけでなく、その調理実習、有機肥料の作り方、薬草の育て方・作り方も教えている。薬を自分たちで作れるようになった。また、中退した女子学生がお菓子の製造販売をして、生計の足しにしている事例がある。

○縫製実習で製作したブラウスが売れた。

○幼稚園で教室での作法や勉強の仕方を学ぶことで、小学校1年担当の先生の負担が減った。

などが挙げられました。縫製実習では今後、モノボ民族のブラウスや男性のブレザー作りを始めて、卒業生の仕事へと結びつくよう計画しています。